

① 2015 活動の日記様感想文・作文研修

2015年5月16日 雨のち曇り SY小学3年

東谷山でのリスけんきゅう会のかつどうにさんかしました。Kさんの声がでなくて、かわいそうでした。でも、そのかわりにとおくにいる人によびかけるのに、ゆびをつかつてふえをふいていたので、かつこいいなと思いました。

リスは、一つのオリにいっぴきずつ、ごうけい2ひきつかまっていました。今回はじめて、わたしはちょうどさのさぎようをやらせてもらいました。とてもうれしかったけどきんちようしました。

まず、体重をはかるために、オリからふくろにいれようとしたのですが、オリとぬののあいだにすきまができてしまい、リスはそこをすばやく見つけてそこからあつというまににげてしまいました。原いんは、オリをつつみこむようにしておいたふくろの口をぎゅっとひきしめておいておかないといけなかつたのに、さぎようの間にゆるんでしまつたからでした。あつというまのできごとで、なにがおきたのかわからなかつたのですが、にがしてしまつたのがわかつて、とてもくやしい気持ちがしました。もう一ぴきいたので、今度こそしつぱいしないように、気持ちをきりかえてなん度もれんしゅうして二ひき目をやりました。せいこうしてとてもうれしかつたです。

手じゅんとしては、オリからふくろにリスをいどうさせてひもでしばり、ぶらさげる形でつかう体重けいではかります。そのあと、あまりうごけないように小さいオリにうつして、オスかメスかと、首にはつしんきがついているかをみます。今回は、はつしんきがついているオスでした。はつしんきがついているということは、前にもつかつたことがあるということです。一ぴき目のにがしてしまつたリスは、はつしんきがつていなかつたので、北山先生はおこりませんでしたが、ざんねんそうでした。ごめんなさい。

リスをにがしたあと、ふくろとひもだけで重さをはかり、ひき算をしてリスの体重の計算をしました。

あと二つ、次やるときに気をつけたいことがあります。一つ目は、リスをかんさつするためのかごをもつ時に、こわがらずにしっかりもつということです。

二つ目は、シートの上にリスのおしつこがあつても、気にせずさぎようをするということです。今回、いろいろしつぱいしたけれど、べんきようになることがいっぱいありました。次うまくやれるといいなと思います。

次に、木の直けいをはかるデンドロというさぎようについてですが、ほいさんとやましたくんが何度もしんせつにおしえてくれて、いつもはかる全部の木のデンドロをよむことができて、とてもうれしかつたです。

デンドロの数字の読みかたは、ノギスのめもりの読みかたとおなじで、こまかいたんいまでわかります。ノギスでみのまわりの物をいろいろはかってれんしゅうして、ノギスとデンドロのめい人になりたいです。

今回、リスだけではなくむささびもまじかでみることができました。山のちようじょうちかくのすばこで、あなにちょっと手をかけて顔をだしていました。むささびはやこうせいなので、ぼーっとしているように見えましたが、人間をよく見ていて、いつでもにげられるようにあなたに手をかけていたのだそうです。しばらくのあいだ見れたので、とてもうれしかつたです。

帰り道、みずきりを作りました。まず、道のりょうわき(みずきりの木をおくいち)をスコップでほります。そして、てきとうな太さの木をみつけてきて、道のはばのながさぐらいに切り、スコップでほつたあなにあうようにはめます。次に、その木が雨でながされないように、りょうはしにくいをうちます。くいは、ちかくにおちているこえだの中からじょうぶなものをえらんで、てきとうな長さに切って、とんかちでうちこみます。さいごに、おちばやえだで木のまわりのすきまをうめます。そして、じっさいにかいだんを上ったり下りたりして、歩きごこちをたしかめます。わたしは、ノコギリで木を切ったり、とんかちをつかうのがちょっとなれてきて、たのしかつたです。

ちゅうしゃ場にもどつてきて、先生がくるみの木をゆすりました。なにか白い物がたくさんおちてきました。先生がそのうちの一つに火をつけたので、びっくりして見ていたら、白い物がとけて、虫がでてきました。クルミマルハバチのよう虫なのだそうです。白いのは、ろうのせいぶんなのですが、さいしょ見たとき、ふわふわしていて雪のように見えました。

今回おもつたのは、いろんなことが、できたりできなかつたりしたけれど、はじめてのことでも、ちゃれんじしたりたいけんできて、よかつたなどおもいました。

【1844文字 原稿用紙6枚 これはすごいですね。最初は3-4行であったのが、原稿用紙1枚になり、苦しくもなく楽しく、観察をしてみたまま、きいたままを書くことで、読み手にそのイメージがくっきりと浮かぶ文章になってきています。さらによくするためには次のようにすすめます。】

回答: 人が成長していくステップにはいろいろありますが、観察する力がついて、自律していく基礎ができ、自発的に動くというように、基本的にはなるようです。それぞれが不十分であると、自律せず、ほかに依存することになり、自発も作動しないという結果になりますので、だからこそ観察すること、その力が社会にでて、会社においても最大に重要になります。

感想文について

いいですね。それぞれの活動のイメージが、読み手に伝わるようになってきています。さらに、みたままに加えていくことは、色や寸法、形などのイメージを入れられるようにフィールドで注意しましょう。今後必要なのは、さらに詳しく観察をしていくことです。おしつこは何色でしたか？臭ってみましたか？いやだつたらいやだつたので、においをかぎませんでしたと自分の気持ちをかくこと。逃がしたとき、どんな気持ちでしたか？その気持ちや状態を、読む人にいきいきと伝えることが大事です。私が逃がしてしまった、どうしよう、頭がまっしろ、なきたくなった、ごめんなさいとかその状況をあらわす「あなたのことば」があるはずです。かざるのではなく、ごまかすのではなく、その時の気持ちをすなおに正直に書いておくことが大事です。

初めてであった植物や動物についても、私は初めてであつたので、名前もりませんでした。というような表現ではずかしがらず、すなおに、正直に書くほうが、大事です。読む人にあなたの状況がよくつたわるからです。だから大きさ、色、形、表面がざらざらとか特徴を観察して、それをもとに図書館で調べられるようにしておくことです。名前がなくてもその特徴だけで他の人に伝わることも可能だからです。

それから、文字を書いて、習っている漢字はできるだけ、漢字でかくことです。それは漢字のもつことばのイメージが読み手に伝わりやすいからです。また習っていない漢字でも、漢和辞典で引いて、あとからひらがなを消して、漢字になおすようにして、漢字を文章を作る中でおぼえていくことです。習っていないでも、辞典の引き方さえ学べば、自分でどんどん覚えられるからです。そのように漢字を覚えるほうが大事です。文章の中の漢字として。これは英語の単語を覚えるのと類似しています。こういった作文を、きちんと400字詰め原稿用紙に書いて、どんどん残しておきましょう。夏休みの自由研究や、作文コンクールにだせるよう。次の作文を楽しみにしています。